反貧困世直し大集会 2012

世の中、なんとかしたくない？

～あなたの声を聞かせてください。～

報告集

反-貧困
ANTI-POVERTY CAMPAIGN

2012 年 12 月 1 日発行

「反貧困世直し大集会 2012」実行委員会

全体会１ オープニング

「反貧困全国キャラバン 2012」がゴールしました！

全国４７都道府県を駆け巡って、「声をあげれば社会は変わる」と貧困問題の解決を訴えてきた２台のキャラバンカーが芝公園にゴールした。キャラバン隊がステージ上にあがり、「Asian まんはったん」の３人組と共にオリジナルのテーマソングを披露した。

釧路、沖縄、新潟、福岡、福井、高知、広島、岐阜、三重、愛知、栃木、群馬、埼玉、京都、和歌山、大阪、東京のキャラバン隊から報告があった。

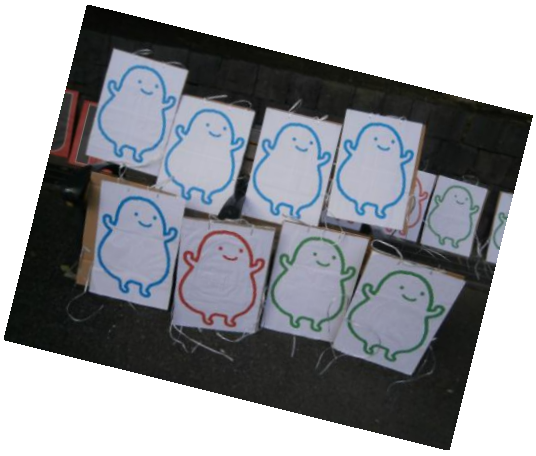
沖縄からは、完全失業率、離婚率、年金納付率など様々なデータで貧困が集中しているのに、それに加えて基地の問題があり、本来なら貧困問題が最優先で解決されるべきなのに、基地の問題で翻弄されている実情が紹介された。

新潟からは、毎年自殺率が全国５位以内の自殺大国であること、消費税が引き上げられ、生活保護が引き下げられれば、ますます自殺者が増えると警告がされた。

キャラバンをきっかけにして、さまざまな団体・個人がつながり、ネットワークを広げ、各地で反貧困ネットワークを結成し、今後も継続的に貧困問題の解決に向けた取組が続けられると報告された。（中西）

全国からキャラバン隊が駆けつけました！

人間らしい生活と労働の保障を求めて、つながろう！



スピーカーズコーナー

■[生活保護]
■[キッズコーナー・わかちあい]
■[反貧困キャラバン]
■[女性]
■[労働]
■[生きづらさ]
■[女性]
■[所得再分配]
■[セクマイ]
■[移住者]
■[子ども]
■[吃音者のグループ]
■[たたかいと文化]
■[世界の貧困]
■[住まい]

「世の中、なんとかしたい」みなさまへ
ようこそ、いらっしゃいました。
世の中、なかなか思うようには変わりませんが、それでも自分たちで変えていくしかないんですよね。そのためには、自らも声をあげつつ、自分と異なる意見の人たちと対話しつづけていくしかない。
今回の「世直し集会」は、そんな思いを込めて、「世の中なんとかしたくない？あなたの声をきかせてください」と銘打ちました。
声をあげれば反対意見にも出会う。それはこわくて、面倒なことです。でもそこでも対話していきたい。そのひとつひとつが社会につながっていると思うから。今日は一日、いろいろな声に耳を傾け、また声を出していきましょう。

◇◆◇　生活保護　◇◆◇

大河内さんの名 MC の下、宇都宮弁護士のあいさつで始まる。年末に向けて生活保護基準の引下げ必至の状勢。社会保障審議会の部会を傍聴し、声をあげて心ある委員の皆さんを応援しようとの訴え。

全国に警察官 OB を福祉事務所に配置する動き。福祉行政の変質を招くので阻止すべきである。専門性のあるケースワーカーの増員こそ必要だ。

江東区堅川公園では野宿者を強制的に排除する動きが。声が出ないところをたたくのは生活保護バッシングと同じ。力を合わせて声をあげていこう。

老齢加算廃止され、裁判で戦っている。これからも判決が続くが、これ以上基準（保護費）が下げられたら大変だ。

福祉事務所に行くと思うだけでしんどくなる。黙っているだけではダメだと思って今日は来ました。

障害者(車イス)にとって今の住宅扶助費は低すぎる！いろんな声が次々と出ました。生活保護改悪をくいとめるため、みんなで声をあげよう！

◇◆◇　キッズコーナー・わかちあい　◇◆◇

キッズスペースとわかちあいのスペースでは、今回初の「女性限定ハンドマッサージ」も加わり、みんなでゆったり、のんびりとした時間を過ごすことができました。

わかちあいのスペースは、人数が少なかったですが、キッズコーナーの子どもたちの元気な声や、遊ぶ姿にこちらの心もとても癒され、お花畑コーナーでは、みんなの願い・思いを書いた花たちが晴天と共に堂々と咲き誇っていました。(宮本)

◇◆◇　反貧困全国キャラバン　◇◆◇

反貧困キャラバン 2012 のコーナーでは、チラシや新聞記事など各地の取組みを紹介したテント横で開催しました。7 月から始まった反貧困キャラバンですが、無事に 47 都道府県での活動を終えることができました。

貧困が拡大する中、各地では工夫に富んだ取組みがありました。すべてをご紹介する事はできませんでしたが、集会やシンポジウムの他、市役所や福祉事務所への要請、街頭宣伝、屋外でのイベント等、一般の市民の方を巻き込むような企画もあり、各地の担当者からの報告で詳しく語られました。また、貧困問題を言えば、生活保護についての取組みも多い中、富裕層に対する風や消費税等の税制問題が取り上げられたり、キャラバンを受けてのそれ以降のネットワーク作りやどのような運動をしてい

くかについても、議論が交わされました。

反貧困キャラバン 2012 はこの日をもって終了ですが、人間らしい生活と労働の保障を求め、世の中を変えていくため、今後も全国的な反貧困問題への取組みを作っていきたいと思います。（徳武）

反貧困全国キャラバンでの各地の取組を報告するとともに、キャラバンに取り組んだことによって明らかになってきた運動の悩みやこれからの教訓について意見交換した。

地方からは、「地元には産業はないし雇用もない。『反貧困』はいいけれど、具体的にはどうすればよいか分からない。」といった率直な悩みも出された。運動を広げるには、①正しい方向性を鋭く指し示すこと、②ムーブメントを起こすことが重要だと指摘があった。運動の方向性に関しては、貧困問題の解決にとって常にネックになる財政・財源の問題について、「富裕税」などの富裕層からの再分配の強化を訴えることや、金融システムのあり方を変えていくことが重要だと指摘があった。飛び入り参加者からも国際金融取引税について訴えがあった。

その他、運動のための活動資金の確保や、継続的な運動の発展に関する工夫や悩みも出しあった。（中西）

ぼよよんに、あなたの困りごとを聞かせて！

◇◆◇　労働　◇◆◇

全体で 30 人ほどが参加しました。

国家公務員の賃下げ問題、アメリカの労働運動活動家、原発・除染労働者の実態、郵政非正規の定年制問題、過労死防止基本法と遺族の活動などが話されました。

過労死遺族の方は、「人が亡くなってからでは遅い。長時間労働を規制し、私たち遺族が味わった悲しみを二度と起こして欲しくない。」と強調。また、ビデオ撮影で参加していた大学生は「何故、これほどまでに人が働くのかわからない。今日は交流が出来て良かった。」と語りました。

◇◆◇　生きづらさ　◇◆◇

「生きづらさ」をテーマにしたコーナーでは、「脱資本主義宣言」を出版したばかりのフリーライター・鶴見済氏をゲストに迎え、「資本主義」から派生する生きづらさの問題についてトーク。

学校でのいじめや競争社会、労働といったテーマから、その背景にある新自由主義の問題が語られ、一方で「新しい共同体」「新しい働き方」について、観客も交えて実りある議論になった。

どうやって資本主義が当たり前とされている現状から、少しでも生きやすい「緩い」生き方・社会ができるのか。そんなことを改めて問う集まりとなった。（雨宮）

雨宮処凛さん＆スペシャルゲスト・鶴見済さん

◇◆◇　女性　◇◆◇

「貧困女子会」と題して、三つのテーマについてディスカッションしました。

一つ目は、「女性差別について」。そもそも女性が貧しいのは給料が安い。昇給しない。非正規で、しかも大抵有期雇用なので、契約更新が気になって、生理休暇さえとれない。いろいろなハンディキャップがあっても、できるだけ丈夫で元気で明るくしていなければ、クビになってしまう。ハケンなど休職制度などほとんどない。病気になったら、休んで治して元の職場に戻れないなんて、人間として扱われていない。

二つ目は、DPI の視覚障がいのある方から複合差別はすさまじい。資料集をよく読んで、今後つながっていきたいと思った。

「自由について」を最後に語り合った。お金がなければ自由や安全が買えないという社会なんていやだ。強制や束縛から逃げること。自由の敵と戦い、勝ち取ること。そして平等も。

◇◆◇　所得再分配　◇◆◇

金持ちからは税をたくさんとり、貧しい人からは少ししかとらない。さらに貧しい人に社会保障を手厚くする。そんな所得再分配機能を実感してもらうゲームを本邦初公開で行ないました。

A チームは車を売ってたくさん稼ぎ税は 20%、B チームは少し、C チームはもっと少ししか稼げず、国民健康保険料を払うのもたいへん。もっとお金持ちの税率は上げてもいい！と実感しました。また、最初の条件も全然ちがう。格差や貧困を実感できるゲームとなりました。

日本は所得税の税率をこの 20 数年下げ続けてきました。参加者からはもっとお金持ちの所得税を上げても良いのではという声もきかれました。

このゲームをこれからも広めていきたいと思っています。（赤石）

本邦初公開！所得再分配ゲーム。盛り上がりました！

◇◆◇　セクマイ　◇◆◇

世の中には男性と女性だけがいて、必ず男性は女性を、女性は男性を好きになる。本当にそうでしょうか―？さまざまな調査結果から、人口の少なくとも数%はその例にはあてはまらないセクシャル・マイノリティであることがわかっています。本スピーカーズコーナーでは、レズビアン、ゲイ、トランスジェンダーなどの当事者らが、仕事・お金・人間関係・医療/福祉・レジャーなどの生活の一場面で感じている難しさを共有しました。たとえば、セクシャル・マイノリティであることを隠したまま、公的サービスなどを受けることに不都合があったり、異性愛者のふりをしないと円滑に人間関係を築けなかったりすることがストレスになることがあります。参加者からも積極的な発言があり、交流の中で、セクシャリティに限らない社会の多様性への気づきや、少しの配慮でいろいろな人がより生きやすくなることなど、今後につながるさまざまなアイディアが提示された機会になりました。

レインボーカラーで色とりどり。

◇◆◇　移住者　◇◆◇

移住者のスピーカーズコーナーは、外国人のシングルマザーたちが、子どもたちと一緒に参加しました。日本人配偶者と、時にその家族全員による暴力のために、生きていく力を奪われた女性たちが、どうやって力をとりもどしていけるのか、そのために必要な制度や法律の改定について話しあいました。それぞれの女性が、自分のつらかった経験を語りわかちあうことで、力をとりもどしましたが、日本の法律は、外国人女性が、夫に依存した形でしか在留することを許しません。そのために、子どもの親権を外国人女性がとることすら、裁判では認められないのが現状です。外国人女性が力を回復するだけでは、日本の中で外国人と日本人は平等に生きていくことができません。日本人とともに法律を変え、差別をなくしていくことが必要です。

これからも日本人の皆さんとともに手を結んで困難に立ち向かっていきます。よろしくお願いします。（稲葉）

NO TO VIOLENCE AGAINST WOMEN！

◇◆◇　子ども　◇◆◇

まず第 1 部では、様々な当事者、そして支援をしている方から発言をいただいた。各地で学びサポートをしている A さん（クローバー）をはじめ学生の方々の発言が特徴的であった。「子ども・若者」と題してもなかなか当事者である学生たちは発言しに来ることができない現状がある。そんな中、高校生の T さんも発言され、とても有意義な時間になったのではないだろうか。特に実行委員である I の発言は次世代に貧困を残してはいけないという想いが強かった。第 2 部では、「ルポ子どもの貧困連鎖」を書かれた池谷幸司さんと児童養護施設で繰り返される虐待について取材されている小宮純一さんの 2 人でミニシンポを行ないました。お 2 人とも本当に苦しんでいる子どもについて報告していただきました。子どもは親を選べない、生まれてくる家庭によっての苦しみは、絶対に解決すべきである。子どもの貧困は本当に解決が急がれる課題であると思いました。

◇◆◇　吃音者のグループ　◇◆◇

言葉が吃る吃音者が 6 人くらい発表しました。言友会という吃音者のセルフペルプグループの会員が 3 名、ツイッターでの告知に応募しての参加が 1 名、ミクシィでの告知に応募が 2 名です。吃音があるおかげで、社会や他者のとのつながりが持てない、少しでも社会に吃音のことを認識してもらえれば、生きやすくなるという 20 代の男性の発表があったり、吃音が原因で学校で嫌がらせを受けたという 20 代の女性の発表などがありました。また、吃音がありながらもポジティブに吃音を活かして芸能界に行きたいという 20 代の男性の発表もありました。

吃音者として、今回、反貧困イベントでは初めての参加でしたが、吃音と貧困という問題がうまくつながり、吃音者にとって発表の機会が与えられたこと、新たな世界が広がったように感じます。ありがとうございました。

メガフォンで力強く語りかけました。

◇◆◇　たたかいと文化　◇◆◇

反貧困まずは給料アップから！	田野	香句
反貧苦デモする我等に絆あり	風来坊	香句
反貧困ふたつ返事でカンパする	剛	香句
貧乏をなくすたたかい今ここから	乱息龍	
ナマポとは生活保護だノブテルよ	ポカリ	
声あげよそこから歩む反貧困	ぽよよん	

30 句集まった。若い人から年配者まで掛け声に触発された句もあって、なかなか楽しかった。

ジョニーH さんの歌声が響き渡りました。

◇◆◇　世界の貧困　◇◆◇

青空の下で、プラスチックのメガホンを手に話すことがこんなに気持ちのいいことだとは思いませんでした。普段あまりすることのない腹の底から声を出す心地良さもあるのでしょうか。

さて、今回「動く→動かす」では世界の貧困ということでお話しをしました。

聞いている方が少なかったのが少々残念でしたが、飢餓、妊産婦、子ども、スラム、衛生的な水、教育等に関して世界の現状と課題をデータで示すことができました。「WE21 ジャパン」の重田さんには、神奈川県内のリサイクルショップという地域に根ざした活動から海外の支援の現場をつなげる仕組みや想いについて話していただきました。

いつもどうしたものかと考えながらも考えあぐねていることですが、国内の貧困に関心がある方や活動されている方と、海外の貧困に関心がある方や活動されている方との交流や協力という課題について再考する場にもなりました。（諸）

◇◆◇　住まい　◇◆◇

住まいのコーナーは、4 つのセクションを設けて開催。第 1 は「住まいと暮らしの絶叫」で思いのたけを絶叫してもらうもの。飛び入りを含め 10 名の人が参加。高家賃や追い出し問題、住宅政策や政治の問題にもひろがり、叫び声は会場を驚かせ、大いに盛り上がりました。全員入賞し、記念品のクオカードが贈呈されました。

第 2 セッションは、「追い出し屋法案再提出に向けて」で弁護士の方を中心に活発な討論、報告が行なわれました。報告では湯浅誠氏が与党提案の法案が廃案となった背景を説明。住まいの現状について意見交換の後、今後の取組みについて議論を展開しました。

第 3 セッションの参加者、参加団体のアピール、第 4 の住まいの何でも相談会は、時間の関係で同時に進行、実施となりました。

参加者は他のコーナーをしのぐ集まりがあり、住まいの問題を交流し、今後の活動へ意志を統一していくものとなりました。

住まいは人権！

過労死を考える家族の会のマスコット「はやくおうちにカエル君」です。愛嬌のある表情に、参加者も思わずニッコリ。

スピーカーズコーナーとは？
街頭や公園で、話したいことがある人が、誰でも自由に話せるオープンスペース。スピーカーと聴衆が意見交換をすることもあります。「反貧困世直し大集会 2012 では、芝公園に 15 のスピーカーズコーナーが出現。参加者も交え、白熱した議論が繰り広げられました。

全体会2　クロージング

スタンド・アップ、集会宣言採択、そしてパレードへ！

全体会 2 では、スピーカーズ・コーナーの中から、宇都宮代表の判断により、6 つのコーナーから報告してもらいました。生活保護、尊厳死と貧困、所得再分配、吃音者のグループ、移住者、住まいの貧困からそれぞれ話し合った内容を会場の参加者とシェアしました。

さらに STAND-UP では、反貧困全国キャラバン 2012 のスローガン「人間らしい生活と労働の保障を求めてつながろう」を合図に、地球上から貧困をなくすために、皆がたちあがりました。

最後に、集会宣言を拍手で採択し、パレードに出発しました！（稲葉）

★初参加で司会を担当しました★

初参加で司会という大役を仰せつかり、とても緊張しました。でも思い切ってやってみてよかったです。壇上から全体を眺めるというのは貴重な経験でした。

今の日本の社会にはいろいろな種類の貧困（生きづらさ）があり、そしてその生の声はとても説得力がありました。きっと誰もが日常生活を送るなかで感じている（または感じているけれども見ないようにしている）日本社会の息苦しさや居心地の悪さが凝縮されているように感じました。再就職に難航している人、一度職を失ったら再就職は難しいと分かっているので、水際で会社や組織にしがみつき、身も心もボロボロになっている人・・・。誰もが優しい笑顔で過ごせる社会であってもらいたいです。そのために何ができるのか本気で考えなくてはいけないと思いました。

まずは日本社会の貧困（特に制度面でのお粗末さ）が解消されなくては国民の生活、ましてや精神的な貧困の解消は実現できないと思いました。（実行委員 M）

★みんなの声で世の中を虹色に★

これまで本でしか知らなかった反貧困活動に参加してみると今まで読んできた本の登場人物になったような夢のような気持ちでした。

実のところ私の家族はシングルマザー、借金、非正規、ニート、メンヘラ、生活保護、DV とそれだけで分科会できるんじゃないのと思う様な貧困経験を揃えています。甘かったです。そんなの氷山の一角だとうことは重々承知していましたが、スピーカーズコーナーを廻ってまだまだ数多くの貧困問題があると改めて思い知りました。問題は山積みです。

けれど、たくさんの人が声を上げる姿は本よりもずっと感動的でした。たくさんの活動家、活動団体の各々異なる色がある反貧困の世界は、色鉛筆の蓋を開けたときのようなカラフルな世界でした。今にも真っ黒に塗り潰されそうな暗い世の中を、みんなの声で虹色に塗り直せる日を目指している様に見えました。更にたくさんの声を武器にするためにこれからできることを考えていきたいと思います。（実行委員 I）

反貧困世直し大集会 2012
世の中なんとかしたくない？ ～あなたの声を聞かせてください。～
集会宣言

今日の集会では、私たちは、これまで無視されてきたひとつひとつの小さな声を、このみんなとわかちあう空間でいっしょに声をあげることで、大きな声にして社会に届けることができました。ただ生きていく、そのために多くの人がたたかってきた苦しく孤独な闘いを、仲間といっしょに乗り越えていくための、さらに大きな一歩を、今日ここに踏み出すことができました。

財政赤字を根拠にした生活保護基準の引き下げ、不況を理由にした解雇や、労働条件の破壊、市場原理に委ねられていく公共サービスなど、私たちの生活は先がみえずますます不安定になっています。お互いを信頼して助け合う社会から、強い者だけが生き残るジャングルの掟が支配する社会に突入していくかのようです。

現在の日本は、たしかに高度成長期やバブル経済期のように経済的に上り坂にありません。でも、誰もが安心して明日を迎えるために必要な、医療サービスや、教育、住宅をすべての人と分かちあえるぐらいには、私たちの社会は十分すぎるぐらいに豊かです。

貧困問題は、いかにして個々人が収入を増やせるかというお金だけの問題ではありません。いかにして豊かさを分かち合うことができるか、という私たちの発想の転換の問題です。

私たちはここに、年齢や性別、セクシュアル・アイデンティティ、国籍や出自、障害の有無、家族構成にかかわらず、すべての人が尊厳をもって、安心して働き、そして生きていける社会をつくるために必要な諸制度を政府に求め、そのために私たちはともに手を結んで取り組むことを宣言します。

2012 年 10 月 20 日（土）　集会参加者一同

発行元：**反貧困ネットワーク**
〒162-0814　東京都新宿区新小川町 7-7　NKB アゼリアビル 202
TEL. 03-6431-0390　FAX.03-5579-8540
Mail: office@antipoverty-network.org
URL: http://antipoverty-network.org/